

「文字の奥深さを広く伝える漢字教育実践」

最優秀賞



静岡県 文字處しゐする
主宰 古澤 英一

「白川文字学」を学ぶと「漢字は言葉そのもの」であることに気づきます。わたしたちはものを考えるとき、言葉を使ってものを考えます。「白川文字学」により「漢字の成り立ち」に触れることは、日頃何気なく使っている言葉の意味をもう一度捉え直すことにつながります。ものを考えるとはどういうことか、このことを「白川文字学」はあざやかに示しています。この度、白川静先生のお名前を冠する賞を戴くことは恐縮の極みです。当方の幅広い年齢層への取り組みを評価戴きまして、誠にありがとうございました。白川先生のお背中を遠くに見つめながら、これからも精進して参ります。

1 実践の概要

浜松書道研究会発行の月刊誌『書研』にて、白川文字学に基づく漢字の解説文「漢字の稽古」を連載し、未就学児童から年配の方々まで広く、白川文字学をわかりやすく紹介している。また、漢字教育士として文化センター、カルチャーセンター、協働センターでの講座の他、小中学校の特別授業、社会人の異業種交流会等で、浜松市内だけでなく市外でも幅広い年齢層を対象とした講演活動を行っている。

2 実践の内容

(1) 書道教室向け月刊誌『書研』での「白川文字学」の伝播

浜松市内における最大級の書道教室団体である浜松書道研究会発行の月刊誌『書研』（毎月約1万部）において、2016年2月号から「漢字の稽古」の連載を開始。フリガナをつける、挿絵を加える等、紙面構成も工夫しながら、白川文字学に基づき漢字の成り立ちをわかりやすく解説している。2017年3月号からは、その連載と連動する子ども向けの「甲骨文・金文・篆書の課題コーナー」も新設され、「読みやすくて面白い」との好評を得ている。



(2) 子どもから大人までを対象とした「漢字の成り立ち」講演

未就学児童およびその保護者を対象とした講演会から、社会人の異業種交流会での特別講演、仏事法要における檀家への説話代わりなど、開催場所を問わず、幅広い年齢層を対象に講演を行っている。また、主宰を務める文字處しゐするには、日本語教師や国語教師、書道師範等約60名の受講登録者がおり、白川文字学に関する講座を開催している。書き込み式のレジュメの他、スライドの使用や参考文献の紹介等、見せ方にもこだわり、白川文字学に初めてふれる方々にも楽しく聞いてもらえることを心がけている。



3 実践の成果

『口』の形を『くち』ではなく『器』である」とする理由については、「推理小説を読むようにドキドキした」「漢字の話だけなのに、あつという間の2時間だった」と受講者に好評を博し、「子どもたちに聞かせたい!」「ウチの団体でも是非!」等、受講者から新たな開催場所を紹介して戴き、ゆっくり、じわじわと「白川文字学の伝播」活動が広がっている。